

研究タイトル：

地方都市の公共交通利用促進



氏名：	野田 宏治 / NODA Koji	E-mail：	noda@toyota-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学), 技術士(建設部門)
所属学会・協会：	土木学会, 日本都市計画学会, 交通工学研究会, 交通心理学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本都市学会, 日本技術士会		
キーワード：	公共交通, 意識調査, 視覚障害者の交通, 交通安全, 運転免許の自主返納		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用者評価, 利用促進 ・交通事故防止策, 交通安全, 通学路の安全点検 ・障害者の交通, 運転免許返納 		

研究内容： 1. 公共交通利用促進

1. 公共交通利用促進

豊田市では、民間バス路線の撤退に伴い、豊田市営の路線バスが複数路線新設された。また町村合併後の旧町村にはそれら地域内で地域バスが運行されている。高齢化が著しい地域では人口も減少し、公共交通の利用者増もあまり望めず、何らかの方法で、利用者確保が求められている。

これまで、豊田市足助地区で開催された「中馬のおひなさん」「香嵐溪もみじまつり」のイベントで、観光客を対象とした観光と交通に関する意識調査を実施した。その結果、路線バスを利用した観光はわずか数%で、自動車利用が70%以上であることがわかった。

高齢の観光客においても、公共交通を乗り継いで観光に来ることは否定的で、高速道路網が整備された状況では自動車利用から公共交通へと転換してもらうことは困難であることがわかった。このような状況から、滞在型の観光においては、路線バスを利用した観光地巡りが最も有望な路線バス利用者となり得ると考えた。

図-1 に示す研究手順で研究を進めている。

定時運行の路線バスに空席分の観光客を乗せることで、地域の路線バス存続につながる。イベントで多数の観光客がバスを利用することは好ましくない。通常のダイヤの中にかに観光客で空席を埋めるのが大きな課題である。路線バスの主役は、地域住民であり、観光客はあくまでも地域住民のバス利用を妨げないことが重要である。

2. 運転免許返納

高齢者運転者が係わる交通事故が減少せず、高齢者の運転免許を自主返納させることで交通事故を減少させる活動が活発に行われている。

自動車に代わる代替交通に転換できる地域ではさほど問題ではない。しかし中山間地では公共交通路線が脆弱で、転換手段もない。加えて分散する農地や山林の手入れには自動車の利用をせざるを得ない。

運転免許を返したくてもできない中山間地高齢者のジレンマを明らかにする。

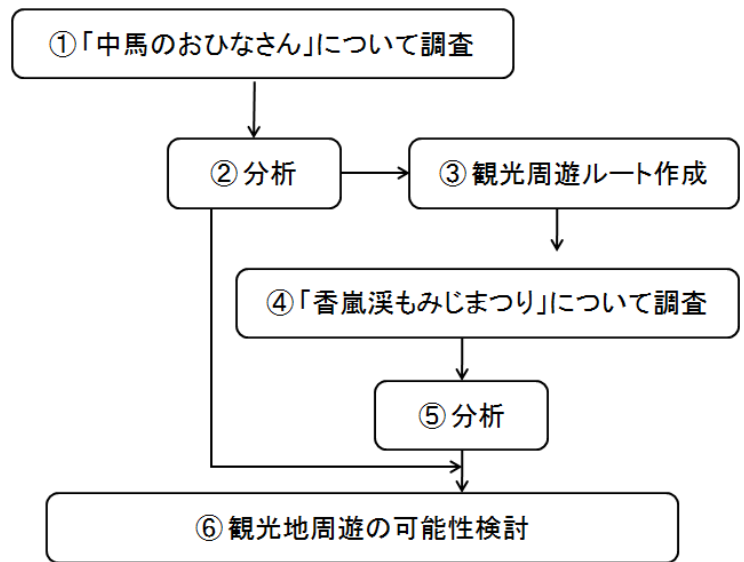


図-1 研究の手順

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	